

プレジデント Family

親子の時間、子育てをもっと楽しもう！

特集 中学受験
成功談100 失敗談100

プレジデントファミリー
FEB. 2014

特別定価 880円

中学受験の 成功談

本番間近！

the stories of success and failure
in junior high school exam

特製「日めくりカレンダー」1冊
1日1題のご利益

100

わが子は
絶対受かる！

100

失敗談

受験相談1万回の結論
「合格させるママVS.落ちるママ」
3つの大きな違い

どんな結果でも、幸せになる！
わが家には第2志望校が
「運命の恋人」だった！



I wanna be

Santa Claus

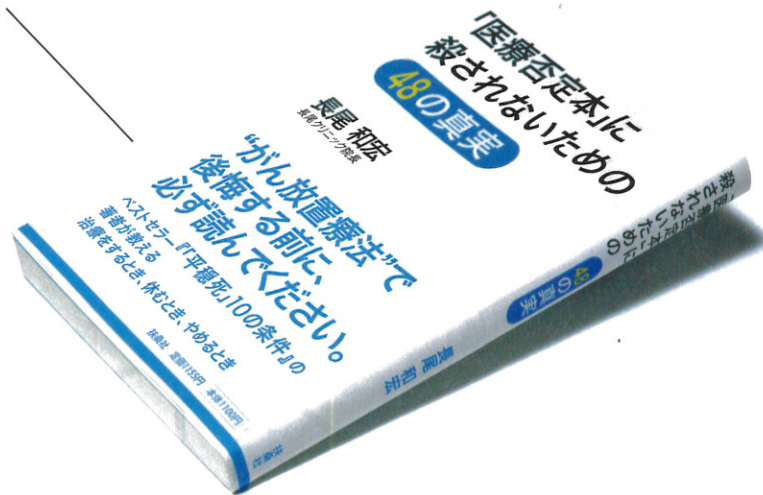
これからのお母さんのために

森上先生の
「中学受験」超入門講座

長尾和宏さん

『医療否定本』に 殺されないための 48の真実』

扶桑社
1100円+税



町医者が説く「がん放置療法の実害」

今、

世の中では「医療否定本」が大ブーム。その代表格が、慶應義塾大学医学部が、慶應義塾大学医学部放射線科講師である近藤誠氏の著書『医者に殺されない47の心得』だ。近藤氏は、がんは放置したほうが長生きするという「がん放置療法」を提唱。センセーショナルな内容が話題を呼び、2013年9月には100万部を突破した。

だが、同書がミリオンセラーになる状況に危機感を抱き、真つ向から異を唱えた医師がいる。『医療否定本』に殺されないための48の真実』を出版した長尾和宏医師だ。執筆の動機を、長尾氏は語る。

「医療否定本を極論として楽しむ分にはいいでしょう。でも当事者にとってがんは切実な問題。私が経験したケースでも、大腸がんが見つかって手術すれば十分治る状態だったのに、本を真に受けて放置、がんが穿孔して人工肛門になった患者さんがいます。半年前に手術をしていたら人工肛門にはならなかった。こうした実害が多数出ています。もう無視できません」

危機感が人一倍強いのは、現場で多くのがん患者に接しているから。長尾氏は開業医としてクリニックを営んでいる。その日常は、診察時にかんを発見して専門医を紹介したり、専門医の治療後は外来医・在宅医として患者をケア、

も

結果的に患者をみとめることもある。いわば入り口と出口のところががん患者と接点を持つため、がんを放置した患者がどのように最期を迎えるのか、よく知っているのだ。

「手術が怖いと言ってがんを放置した患者さんは、数年経つと痛い、苦しいと言って戻ってきますが、やはり亡くなってしまう。これを『がんの自然死』といいます。理屈抜きにがんの自然死をたくさん見てきた僕ら町医者からすると、固形がんは放置すべきだと主張する理論なんて全く理解できません」

う一つ、長尾氏が批判の対象とするのが、がんもどき理論。近藤氏は、がんには「本物のがん」と「がんもどき」の二つがあり、本物のがんは早期に発見されても転移しているのが手術は無意味、一方のがんもどきは放置しても命に別状はないので治療の必要はないと説く。

「進行がんを手術して長生きしている患者さんはいっぱいいます。それを、亡くなったケースをことさら強調して無意味とする近藤説は、後出しじゃんけん。死に至る『本物のがん』なのか、悪性度の低い『がんもどき』なのか、事前にわからないから医者は苦労しているのです。結果を見てから指摘するのは誰にでもできるし、そんなことをしても患者さんの役には

医療法人裕和会理事長。長尾クリニック院長。1958年香川県生まれ。84年東京医科大学卒業後、大阪大学第二内科に入局。95年兵庫県尼崎で開業。年中無休の外来診療と365日24時間体制での在宅医療に従事し、これまでに千数百人の最期をみとる。日本慢性期医療協会理事など、数多くの要職も務める。『抗がん剤10の「やめどき」』『「平穏死」10の条件』など著書多数。

患者さんに賢くなってほしい。私が言いたいのはそれに尽きます。

立たない。そもそもがんは、「本物のがん」と「がんもどき」の二つに区別できるような単純なものではありません。がんにはグラデーション（段階的変化）があるし、いいがんが悪いがんになることもあります。がんは多種多様なものだということが理論的に明らかになっているのに、二極化して論じるなど、退化した考えといえます」

問

題は、現代の医療界で否定されている理論が、なぜ多くの人を引きつけるのかということだ。

「患者さんの中には、長年の間に蓄積された『医療不信』がマグマのようにたまっています。そこに医者が医者の悪口を言う本が登場したのだから、『よくぞ自分たちの気持ちを代弁してくれた』と、多くの人々が共感、支持してしまっただ。これが『近藤誠現象』の正体です。が、患者さんにそう思わせてしまった原因は医療側にもある。医療界は近藤誠現象を真摯（しんしん）に受け止める必要があると思います」

患者側もこのままではいけない。長尾氏は取材中、熱っぽく何度もこう語った。「患者さんは、もっと賢くなってほしい」と。

「医療否定本に振り回されるのは危険だし、逆に医師におまかせも良くない。大切なのは、自己決定。治療について納得して自己決定するためには勉強する必要があるし、自己決定をサポートしてくれる専門医との出会いも必要でしょう。信頼できる専門医と出会うには、専門医とのネットワークを持つ、かかりつけ医を見つけることから始めましょう。風邪をひいたら、いい機会。試しにいろんなクリニックに行って相性の合う医師を探してみてもいいでしょうか」

①